

Ⅲ－４ 平成29年度学校関係者評価結果
様式第3号（第8条関係）

平成30年 3月26日

平成29年度 稲築西小学校評価

4大変良い 3良い 2努力を要す 1すぐに改善

【学校教育目標】
夢の実現に向け、友だちと共に、元気に学ぶ児童の育成

【本年度の重点目標】－学校経営－
・課題解決に向けた、校務分掌部の連携強化・課題の共有化
・教育課程の計画的実施と評価改善、主題研究の充実
・称賛活動の質的改善
見守られ感・温かみのある人的物的環境の整備

－教育指導－
・基礎学力の向上・表現力の育成
(NRT学力検査50クリア学級80%)
・不登校(遅刻)の減少(不登校児童3名以下)
・あいさつのできる子どもの育成(評価90P以上)

領域	項目	評価指標	自己評価	自己評価を踏まえた改善策	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策				
組織運営	学校経営全般	目指す児童像の具現化に向けて、校務分掌が適切に機能している。 〈結果〉教員のAB評価91%(+6) 本年度の目指す児童像と方策についての共通理解がすすみ、ほとんどの職員が共通実践の成果をもたらす手ごたえを実感していると考え。	4	・子どもたちや保護者・地域の皆様の声を聞くために、年2回以上のアンケートを実施する。	・適切に評価されています。 ・「子どもファーストの学校」作りの具現化設定が素晴らしいと思います。	・本年度の成果をもとに、共通理解を深め、7月と12月にアンケート調査を実施し、児童や保護者の声を聞きながら、取り組みを継続・発展させていきたい。				
		校務分掌組織において、各分掌部会内の係が内部で連携し、協働体制で部会の取組を行っている。 〈結果〉教員のAB評価87%(+11) 各部会の部長を中心に、事前に話し合ったものを議案として提出する流れを作ることができたが、4つの分掌があり、各学年への連絡が遅れたことがあった。	4	・本校は全学年が3学級であり、担任の人数も3名を基本としている。来年度は、学校の校務分掌組織を3つの組織に統合し、各部の内容をすべての学年で連携しやすいように改善する。	・適切に評価されています。 ・取組を継続してください。	・校務分掌部と各種委員会を3つずつに整理し、各学年から1名参加することによって情報の流れを改善し、協働体制のレベルアップを図りたい。				
		会議等の運営状況は適切である。 〈結果〉教員AB評価91%(+15) 校務分掌会議→運営委員会→職員会議という大きな流れと、毎月行う各種委員会・毎週行う各学年会議・職朝・終礼を効率的に行うことができた。	4	・良い評価は得ているものの、運営委員会や各種委員会の話し合いが、常に勤務時間を超えている。さらに効率化を図りたい。	・適切に評価されています。	・1回目の調査に比べて、15%の改善が見られ、運営状況が評価されていると感じている。本年度の取り組みを継続し、更に効率化を図っていきたい。				
		一人ひとりが分かる喜びを味わい楽しい授業づくりを進めている。 〈結果〉児童AB評価86%、教員AB評価86%、保護者AB評価83% 三者の評価が80%を超えることができた。	4	・主題研究や各種研修を充実させ、「今日の学習がよくわかった!」「よく考えた!」「話をしっかり聞いた!」...と言える児童を増やしていきたい。	・適切に評価されています。 ・実態に応じて、板書や教材教具の準備ができていました。	・研修を通して本年度の取り組みを確認し、次年度からの主題研究一年次の取り組みを進めていきたい。そして、全ての教科や活動の授業改善につなげていきたい。				
「進んで学び続ける子」	家庭学習の習慣が身に付くように指導をしている。 〈結果〉教員AB評価100%(+5)、児童AB評価79% 保護者AB評価66% 教員の努力や意識に比べて、家庭学習の習慣が身につけていない児童が多いことが分かる。	3	・落ち着いた学習できるようになってきているが、保護者との連携を図りながら、「家庭学習系統表」に基づいて、宿題の量や内容、出し方などの改善を図りたい。	・適切に評価されています。 ・中学校との共通課題を共有し、連携していることは、大きな前進です。 ・先生方は、よく努力されていると思います。	・PTA総会や懇談会等で、「家庭学習系統表」をもとに小中9年間の学習習慣の定着計画とその大切さを児童や保護者に伝え、家庭との連携をはかりながら、指導を継続する。					
						言語活動を取り入れながら思考力・判断力・表現力の育成に努めている。 〈結果〉教員AB評価77%(+10)、児童AB評価84% 保護者AB評価88% 児童や保護者の評価は比較的高いが、教員はまだ不十分だと感じている。	3	・本年度の主題研究の視点を継続しながら、更に思考力・判断力・表現力の育成を目指して、授業改善を行ってきたい。	・適切に評価されています。 ・多くの児童の発表を促すために、発言の工夫がされました。	・児童や保護者からは、高い評価をいただいているということを確認したうえで、更に思考力・判断力・表現力を高めるために、日常の授業改善に取り組み、小さなPDCAサイクルによって、子どもたちの成長を評価する。
						いじめ早期発見アンケートをもとに、いじめのない学級づくりを行っている。 〈結果〉教員AB評価91%(+4)、児童AB評価83% 保護者AB評価86% 三者ともに取組みの成果を実感している。	4	・毎月実施する定期的なアンケート調査を継続するとともに、日常の指導の徹底を図りたい。	・適切に評価されています。 ・今年は、いじめの話聞かないので、取組みがうまくいっていると思います。	・本年度の取組みを継続しつつ、「いじめの芽」を見逃さないための、日常の細やかな観察と指導を大切にしていきたい。
教育課程・学習指導	子どもたちが善悪の判断ができるように指導している。 〈結果〉教員AB評価85%、児童AB評価86% 保護者AB評価87% 三者ともに取組みの成果を実感している。	4	・「見られていればきちんとできるが…」という意見があった。どんな状況でも正しく判断できている子や、正しく判断できた瞬間をしっかりと評価し、価値付けを行いたい。	・適切に評価されています。	・つつい悪かった時の指導を行いがちだが、「きたほめ福岡メソッド」を意識し、まずは日頃の生活の中で「正しい判断ができていく姿」をしっかりと評価していきたい。					
						時と場に応じた正しい言葉づかいができるように指導している。 〈結果〉教員AB評価58%(+18)、児童AB評価83% 保護者AB評価64% 児童はできるようになったと思っているが、教員や保護者はそう思っていない。	2	・全職員がまずは正しい言葉遣いをすること、その上で、子どもたちの気持ちを大切にしながら、正しい言葉遣いを指導することを全職員で確認する。	・適切に評価されています。 ・先生方の児童に対する言葉遣いが丁寧でした。	・1学期に、就労できる力を育むために、子供たちの成長を認めつつ、「時と場」に応じて、きちんとした言葉遣いができるようにすることを、全職員で共通理解する。また、そのことを学年に応じて指導し、日々の生活の中で正しい言葉づかいをほめながら指導に取り組む。

「元気でたくましい子ども」	子どもたちは、あいさつ運動を意識して挨拶に取り組むことができている。 〈結果〉教員AB評価73%(−8)、児童AB評価84% 保護者AB評価78% 児童はできるようになったと思っているが、教員や保護者は児童ほどできるようになったとは思っていない。	3	・ あいさつ運動をしている時、いつもあいさつをしている人にはしても、その他の時やその他の人にはしないようである。 いつでも、だれにでもできるように指導していきたい。	・ 適切に評価されています。 ・ こちらから挨拶をすると、返ってくるまで成長しています。 ・ よく挨拶をするようになっていきます。特にあいさつ運動の日は、子どもたちの挨拶が元気がいいと感じます。継続してください。	・ 学年に応じて、良くなっているのはどんなところか？足りないところはどんなところか？を考えさせ、一歩上の力をつけさせたい。その上で、豊かな心育成部の「あいさつ週間」の取り組みや、中学校や地域の皆様との連携を通して、あいさつをする習慣を身に付けさせたい。
	コーディネーショントレーニングなど児童の体力的課題を克服するための動きを取り入れた授業づくりを行う 〈結果〉教員AB評価69%(+30)、児童AB評価83% 保護者AB評価83% 各学年の担任が、「コーディネーショントレーニング」を意識的に学習に取り入れるようになってきている。	3	・ 課題である柔軟性と50m走の解消の取り組みを続けるとともに、日常の体育の授業の準備運動などで、コーディネーショントレーニングの活用を行ってほしい。	・ 適切に評価されています。 ・ 嘉麻市スポーツ推進課に、各学年用プログラムを作成してもらい、導入してみたいと思う。	・ 職員の意識も高まってきているので、スポーツ推進課に学年別・領域別のコーディネーショントレーニングを提案していただき、日常の体育の学習などにコーディネーショントレーニングを取り入れ、さらに体力の向上をはかっていきたい。
	子どもたちは、廊下歩行やチャイム席等「学校のきまり」を守っている。 〈結果〉教員AB評価42%、児童AB評価86% 保護者AB評価73% 児童はできるようになったと思っているが、教員は、まだまだできるようになったとは思っていない。	2	・ 「昨年度に比べると、ずいぶん改善されている」という見方もある。しかし、客観的に見ると、まだまだ十分だとは言えない。「稲築西小のきまり10か条」を明文化し、保護者と連携して指導の徹底を図りたい。	・ 適切に評価されています。 ・ 先生と児童のとらえ方に差が出ている。	・ 健康・体育育成部を中心として、「学校のきまり」確認し、教員と児童のきまりのとらえ方をそろえる。その上で、安全・安心な学校を作るための日々の取り組みを行う。
	学習規律の確立など、規範意識の醸成に努めている。 〈結果〉教員AB評価96% ほとんどの教員は、指導の成果を実感している。	4	・ 現在の状況の評価し、褒めながらさらなる指導を継続する。	・ 適切に評価されています。 ・ とても落ち着いて学習に取り組んでいる。この状態が当たり前になるように、指導してほしい。	・ 学習規律が定着してきている。この状態を継続していきたい。
生徒指導・人権・同和教育	生徒指導に取り組む体制が整備されている。 〈結果〉教員AB評価78%(+7) 十分な状態とは言えないが、生徒指導体制を活かし、成果を実感できるようになってきている。	3	・ 他の地域にはない様々な配慮を確認し、それを活かして、いろいろなケースに対応するマニュアル作りをすすめ、担任だけに任せることのない体制を整備する。	・ 適切に評価されています。 ・ 中学校のきまり等を早い段階から意識させていただき、中1ギャップの解消につながると思いました。	・ 学級担任が一人一人の居場所を作り、安心して登校・学習できる環境を作るとともに、生徒指導担当・支援員・支援相談員と連携しながら愛情をもって指導に取り組む体制を作りたい。 ・ 小中連携によって、ギャップの解消に取り組みたい。
	保護者や地域社会、関係機関などとの連携協力ができるよう努めている。 〈結果〉教員AB評価95%(+5) ほとんどの教員が、連携協力ができていると感じている。	4	・ 日々の実践は、保護者・地域の皆さん・関係機関の皆さんに支えられて、いることを職員は実感している。 今後より良い連携を図りつつ日々の指導に取り組みたい。	・ 適切に評価されています。 ・ 今後も中学校生徒会とのあいさつ運動の取組を進めていってください。 ・ 中学校との連携は現在も行われていると思います。その継続と強化をしていただきたい。 ・ 連携・協力が一番だと思います。学校・行政・家庭・地域が一体となって、児童の向上をはかるべきだと考えます。	・ あいさつ運動をはじめ、他の行事等でも、連携・協力を模索し続けたい。
	定期的に安全点検を行い、安全管理に努めている。 〈結果〉教員AB評価100%(+10) 全ての教員が、安全管理ができていると感じている。	4	・ 改善改修されたことと、未改修のものを全職員で確認しながら、より良い環境づくりの意識を高めていきたい。	・ 適切に評価されています。 ・ 5・6年生のリーダーシップを育てることで、学校全体が落ち着きます。現在の取組を継続してください。 ・ 取組を高く評価します。	・ 日々の点検に加えて、係による定期的な点検と改善を行うことによって、さらに安全な環境を作っていきたい。
児童の安全確保や事故の未然防止に積極的に努めている。 〈結果〉教員AB評価92%(−3) ほとんどの教員が、できていると感じている。	4	・ 事前の指導や定期的な訓練の充実を図り、児童の意識の向上をはかりたい。	・ 適切に評価されています。	・ 事前の指導の徹底と共に、地域の方々や関係機関との連携によって、事故の未然防止に努めたい。	
研修	主題研究が計画的に進められ、授業改善に努めている。 〈結果〉教員AB評価97%(+8) 約束やきまりをおろそかにしたことだけがに至る子どもの数は、年々減少しており、日常の指導の成果が評価につながっていると考ええる。	4	・ 本年度までの研究の成果をもとにしながら、全職員で次年度からの主題研究を進めていきたい。	・ 適切に評価されています。	・ 本年度から取り組む主題研究の理論の共通理解をはかり、職員の研修の意欲を高めたい。
	人権・同和教育が計画的に進み、日々の児童の教育にかすことができている。 〈結果〉教員AB評価82%(−3) 多くの教員が成果を実感しているが、学校の状況を大切にしながら、もう一歩前進すべきという考えもある。	4	・ 人権・同和教育に関する学習と日常の言動に関する指導を結び付けて指導していきたい。	・ 適切に評価されています。	・ 校内研究の取組を人権同和教育の学習に反映させるとともに、子どもたちの日常の言動を指導する際に振り返らせることによって、その定着をはかる。
地域連携と教育環境整備	学年・学級だより等で子どもの様子を知らせ、連携を深めている。 〈結果〉教員AB評価100%(+9)、保護者AB評価92% 全ての教員とほとんどの保護者が、連携ができていると感じている。	4	・ 引き続き学年・学級だよりを充実させて、子どもたちの成長を促進し、しっかりと連携していきたい。	・ 適切に評価されています。 ・ 良くできていると思います。	・ 学校・学年・学級だよりを通して子どもたちの成長を促進し続け、より良い連携を継続していきたい。
	学習・生活環境の整備に努めている。 〈結果〉教員AB評価87%(−9)、保護者AB評価90% ほとんどの教員と保護者が、整備されてきていると感じている。	4	・ 限られた予算の中で、事務と相談しながら「子どもファースト」の環境整備を継続していきたい。	・ 適切に評価されています。 ・ たくさんの児童の作品が掲示され、連絡や注意喚起の内容も、視覚的に工夫されていました。 ・ 道具がきちんと整理されていました。 ・ 窓越してはありますが、職員室の中が整理・整頓されてきていると思います。大切なことだと思います。	・ 定期点検に加え、備品購入希望を細やかに調査することによって、学習環境を整えていきたい。 ・ 校庭の環境については、点検と改善を計画的に行い、職員はもとより、地域の方々とも連携しながら整備を進めていきたい。

